データベースSAIGAI の改革

－防災研の災害資料を有効に使ってもらうために－

大西 正光
巨大災害研究センター

トピック

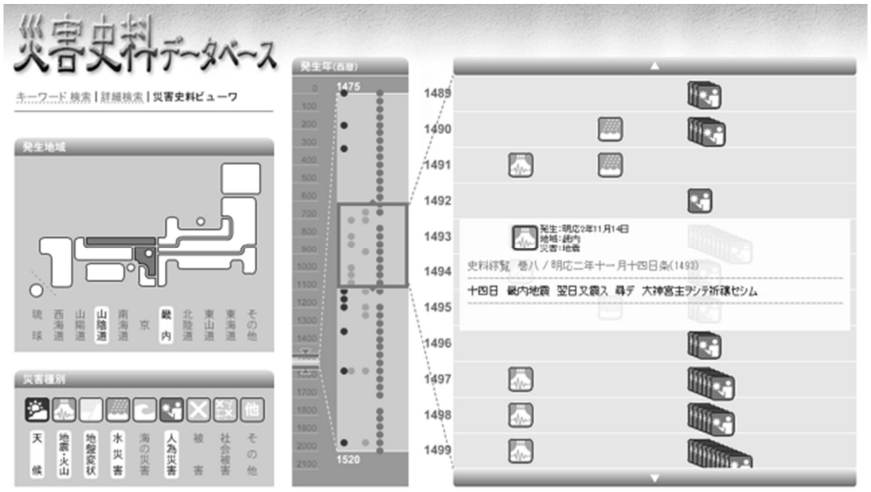
- 防災研究所が管理・運営しているDBの紹介
- データベースSAIGAIの現状と改革
- データベース保有に関する教訓（私見）

自然災害研究者人材データベース（人材DB）

http://nyorai.dpri.kyoto-u.ac.jp/win/jinzai/ndic/login.cfm

- 自然災害研究協議会を通じて運営
- 目的
  - 地区部会の組織確立及び地域に特徴的な災害研究を推進する核の構成
  - 突発災害調査班の迅速な立ち上げ
- 現在の登録数は1037名。2006年に始まり，2011～12年に大幅な登録増．最近の登録は2013年（3件）
- 現状
  - ソフトウェアが古く，セキュリティ上の懸念から外部公開を停止中．
  - 協議会において，同DBを廃止し，MLを再構成することにより，機能を維持することとなった．

災害史料データベース



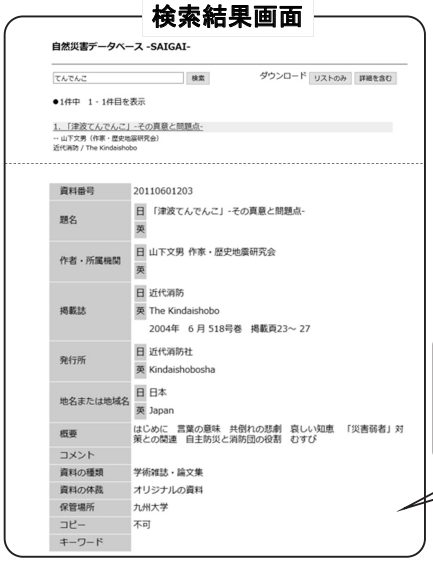
古文書に残る災害の歴史的記録から災害発生パターンを知る

http://maple.dpri.kyoto-u.ac.jp/saigaishiryo/

自然災害データベース「SAIGAI」

検索画面

検索結果画面



災害関係資料の図書館

所蔵件数
126,781件

データベースSAIGAIの運営体制

- 巨大災害研究センターが運営担当
  - 自然災害研究協議会事務局の河津さんが，データベースSAIGAIの目録入力，書庫整理，貸し出し対応を1人で担当
  - サーバーは，京大の情報環境機構のホスティングサービスを利用
- 自然災害研究協議会を通じた資料収集
  - 各地区支部から巨大災害研究センターに，所蔵すべきと判断された資料が送付される.

データベース「SAIGAI」の課題

- **プリミティブな検索技術／データベースシステム**
  - シンプルなキーワード検索のみで絞り込みが難しい.
  - データベースSAIGAIのデータベースと書架配置データベースが未統合
- **不十分な管理体制**
  - 書庫管理は，専門的知識を有する相応の人数の人員が必要
- **冗長な資料**
  - すでに電子化されている資料，他の施設で広く入手できる資料も所属
- **少ないエクスポージャー**
  - わざわざ，データベースSAIGAIを訪ねないと所蔵資料がヒットしない.

データベース「SAIGAI」の改革

- **アウトソースできるものは外へ，できないもののみ内部で**

  データベースシステムには規模の経済性が働くため，すでに大規模に進めている外部機関が提供する既存のサービスを利用する方が効率的

  → 自然災害研究協議会で承認済み
- アウトソース先の条件
  - 安定的・継続的運営が可能な組織
  - 図書館司書などの専門人員を有している組織
  - 所蔵資料が全国図書検索システム（※国会図書館が2020年稼働を目指すジャパンサーチ構想）に含まれる

  → **防災科学技術研究所ライブラリー**などを検討中

アウトソースに向けた課題

- **棚卸しの方針策定**
  - 優先順位：防災研→京都大学→他組織
  - 棚卸しの基準とプロセス
  - 作業の実施人員の確保

- **自然災害研究協議会を通じた資料収集体制の維持**
  - 地区部会の資料収集体制の確認ーヒアリング，アンケート等の実施
- **防災研の貢献の記録**
  - 自然災害研究協議会を通じた防災研資料室のコレクションであったことを移転先の目録に記載してもらう等

教訓　※あくまでも私見です

データベースを保有するとなれば…

- **かなりの規模の**投資（設備と**有能な専門家・戦略家**）が必要

- 継続的な財政的支援体制が構築できなければ，相対的価値は一気に低下する恐れ

  → 期限付き財源は初期投資へ．運営には経常的財源を充てるべき．
- 内部リソースだけでは価値は限定的．連携を通じて外部リソースをどれだけ巻き込むことができるか？

今年度のスケジュール（案）

- 6月　第1回WG　今後の行動方針，手続き，スケジュールの確認
- 8月　第2回WG　所内行動計画の内部ドラフト素案
- 9月18日　第2回自然災害研究協議会　行動計画検討状況の報告
- 9月末　第3回WG　所内行動計画のドラフト
- 10月～12月　学内でのパブリックコメント受付
- 1月～　第4回WG　所内行動計画の確定
- 3月　第3回自然災害研究協議会　所内行動計画の審議